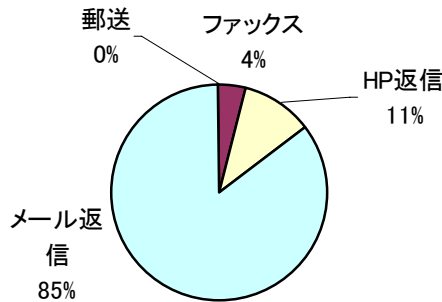


# 「鳥の学校」に関するアンケート（2007年2月実施）の結果

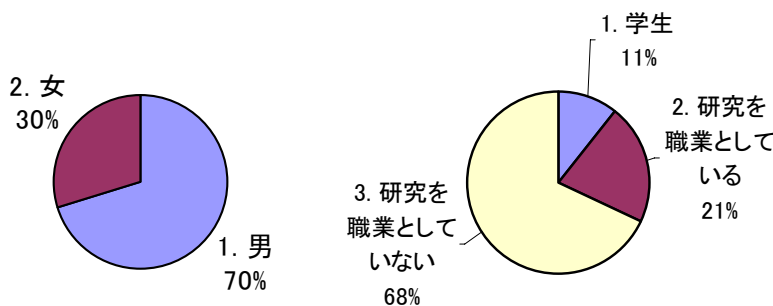
企画委員会

講座「鳥の学校」への希望等に関するアンケートを、和文誌55巻2号綴じ込み、鳥学会ホームページ、鳥学会事務局から会員へのメール配信の3つの媒体を使用して行い、47名の回答がありました。



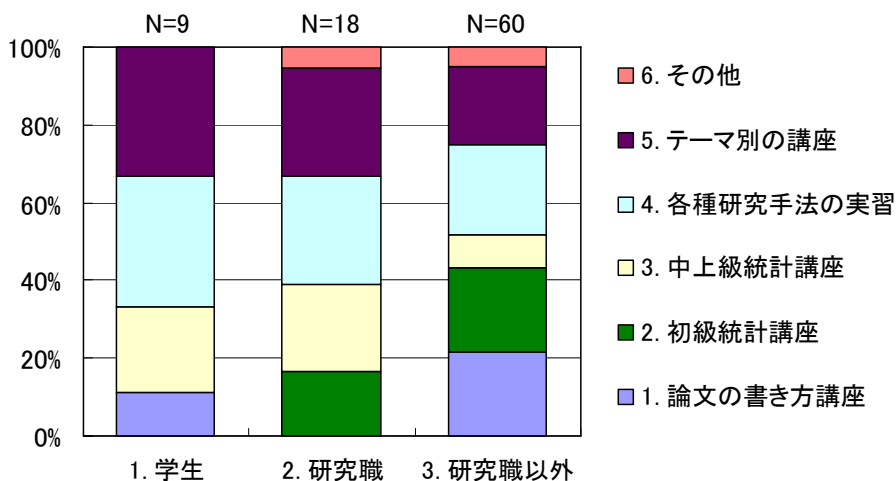
学会事務局から各会員へのメール配信に呼応して寄せられた回答が全体の85%を占め、会員へのメール配信は回答数の増加に非常に有効でした。

回答者の属性は、研究を職業としていない人、研究職、学生の比率が7:2:1でした。男女比は7:3でした。



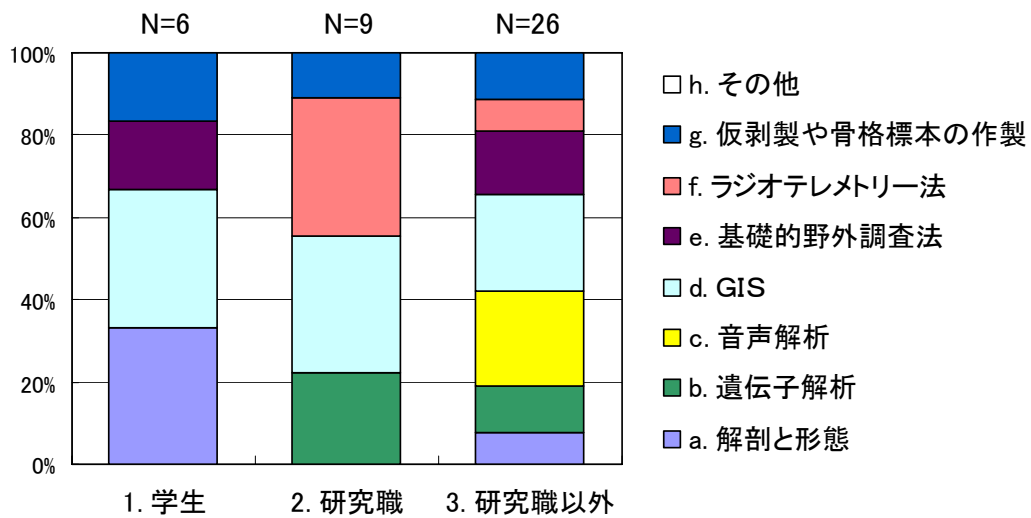
回答者の居住地は関東が39%、近畿・東海が23%、北海道が13%でした。

## 問1 今後どのような講座が開かれれば参加したいか(2つまで選択回答)



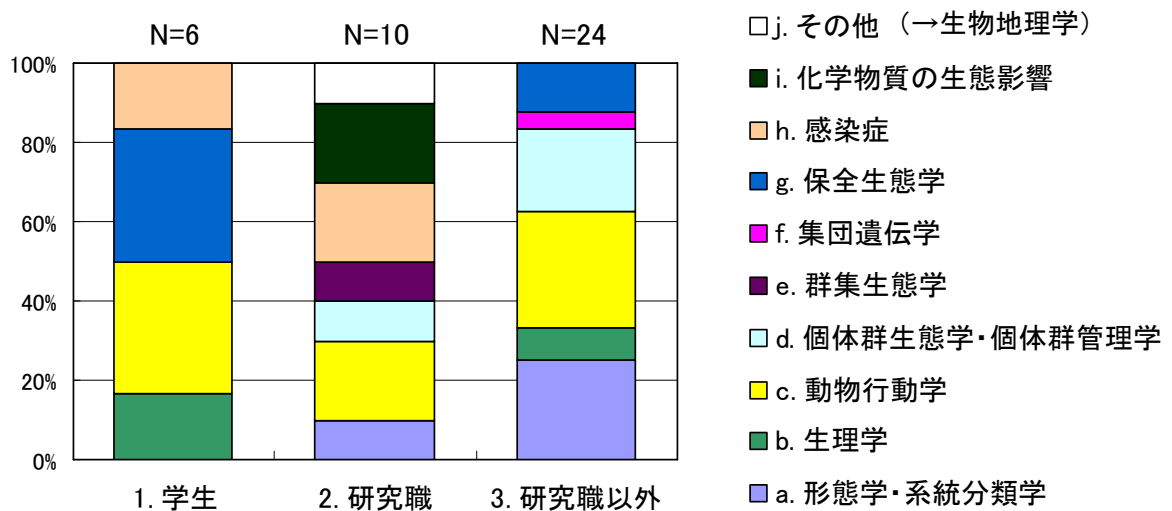
- 研究を職業としていない人では、「論文の書き方講座」や「初級統計講座」への要望が多く、アマチュア研究者のレベルアップにこのような講座が必要とされていることが覗えます。
- 「各種研究手法の実習」と「テーマ別の講座」は、どの属性においても回答の半数前後を占めました。
- 研究職では初級・中上級をあわせ、統計講座への要望が多く寄せられました。

## 問2 「各種研究手法の実習」の希望内容(2 つまで選択回答)



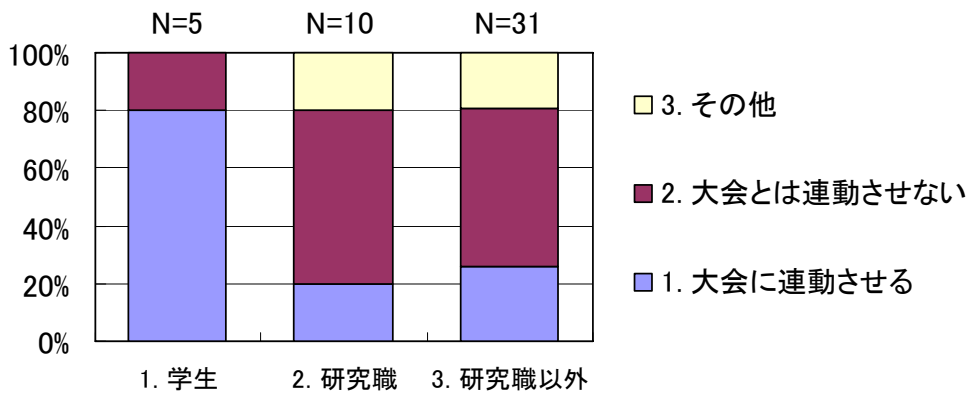
- ・希望は多様でしたが、学生では「GIS」と「解剖と形態」、研究職では「ラジオテレメトリー法」「GIS」「遺伝子解析」、研究を職業としていない人では「GIS」「音声解析」「基礎的野外調査法」「遺伝子解析」が比較的多くを占めました。

## 問3 「テーマ別の講座」の希望内容(2 つまで選択回答)



- ・「動物行動学」がどの属性においても比較的多くを占めました。その他には、学生では「保全生態学」、研究職では「化学物質の生態影響」と「感染症」、研究を職業としていない人では「個体群生態学・個体群管理学」と「形態学・系統分類学」が比較的多くを占めました。

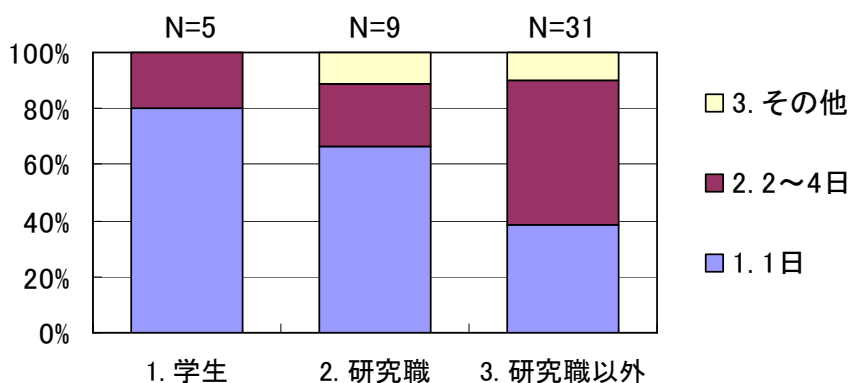
#### 問4 講座を開く場所と時期



- ・学生では「大会に連動させる」が多く、社会人では「大会とは連動させない」が多くを占めました。
- ・「その他」で寄せられた意見は次の通り。

|   |   |
|---|---|
| 時期については特に希望はないが、ぜひ関西での開催を望む。  | 出来れば各地域か県で持ち回りでしてもらえば参加しやすい。  |
| 適宜かいさいしてほしい。過去2回の講座も行ったかったが、いけなかった。次の機会がいつあるかわからないので、希望者がある場合は実施してほしい | 一般的には大会と連動させた方がいいだろうが、長く出張しにくい会員もいるだろうから、それぞれの講座の特性によって決めたらよいのではないか |
| 大会と連動させず、かつ年末や年度末を避けて欲しい  | 土日や祝日   |
| 時期については特に希望ありません  | 連動させないで。交通の便の良いところで。  |

#### 問5 講座の日数



- ・学生と研究職では「1日」が多く、研究を職業としていない人では「1日」と「2~4日」に意見が割れました。
- ・「その他」で寄せられた意見は次の通り。

|                                    |                             |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 都合が付けば2日がよいが、1日のほうが都合を付けやすい→参加しやすい | 1日または2日。それ以上だと参加できない日が出てくる。 |
| 更新ごとに                              | 内容によって決めてもよい                |

## 問6 その他に鳥学会で企画して欲しい事や意見

### 鳥の学校について

- ・鳥の学校などの企画は学会が活性化されてよいと思います。遠方の方だと学会と連動した方が参加しやすいかもしれません。日程が延びる問題はありますが。
- ・研究歴の長い方に、ご自身の研究の歴史や人生観を話していただくような企画はどうでしょうか
- ・東京だけではなく、地方でも行ってほしい
- ・地域ごとに勉強会等を開いてほしい
- ・鳥類の調査方法についての実習、研究ではなく、環境アセスメントでの調査方法等
- ・特にはないが、機会が増えると良い
- ・第2回鳥の学校に参加させていただきました。アマチュアでひとりだけで行ってきていましたが、大会にも見学に行くなど、外部とのつながりを持つことができました。とても大きく広がりを感じました。ぜひ開催してください。

### ホームページや学会誌の活用について

- ・こういった講座の内容を少し詳しくHP上で公開し、講座に参加できなくてもある程度は勉強できるようにしてもらえると嬉しいです。特に統計処理などは、初歩的なものでさえアマチュアが論文を書くときの大きな壁です。
- ・素人なので HP で会員向けの研究手法や調査方法の詳しい説明の講座があればいい。
- ・論文の書き方など、初歩の初歩から連載していただきたい。
- ・国内外の研究事例のデータベース化、トピックス紹介など
- ・学会のHPに会員用の掲示板をおくというのはどうでしょうか。この掲示板には自分の研究での疑問や協力の依頼などを書き込め、会員相互で情報の交換ができればよいと思います。

### 学会セミナーや大会について

- ・昔の国際鳥学セミナーのようなのを、ときどき再開してはいかが。特に、国内で弱い上記の系統分類、生物地理方面。
- ・大会で、若手研究者のためのポスター賞を設けられてはいかがでしょうか？ また、若手同士で研究上の問題点(研究のアイデア、計画の立て方、解析法、申請書の書き方)などについて忌憚ない意見を交換できる場があれば、研究室間の交流が促され、研究の幅も広がり、学会がより活性化されると思います。他学会においても、たとえばベントス学会や数年前までの生態学会などで、そのような試みがなされています。(企画委員会注: ポスター賞は若手限定ではありませんが鳥学会でも行っています)

### 大会時の託児所について

- ・現在子育て中(0歳児)です。託児付きの学会も増えてきていますが、鳥学会でもぜひ託児をしてほしいです。

### その他

- ・学会誌の紙質を落として再生紙使用率を上げたほうが良い。
- ・年齢上、その他の事情でそろそろ退会か、と考える中
- ・I have a budgie and am not an ornithologist. But I am trying to learn anything to do with birds. Although I don't have no brain to understand scientific things, I am trying! Please do keep up the good work. One day I would be able to understand, maybe.